

「ボランテア」の集い

去る十二月二日、富山市の職員会館にて恒例の「ボランテアの集い」を開催いたしました。なぜか今回も雨模様で天気でしたが、総勢一〇〇名を越す多数のご参加をいただきました。

当日は勝山常務から今年度のダイジェストと来年度の予定をお読みいただき挨拶を始まり、来賓の如中日本海政策課長から挨拶をいただきました。

その後、宴盛大の中、本年度の精勤賞の表彰、新ボランテアの紹介を行いました。骨酒が顔を火照らせ、心なごむひとときでしたが、時間の経つのは早いもので、あっという間に閉会時間が迫り、八時十五分、上田チヨッサーから冬季の海王丸の活動予定をお知らせし、篠塚キャプテンの挨拶で、八時三十分、お開きとなりました。

なお、皆さんに、海王丸の写真コンテンツとカレンダーと帆走のポスターをお渡ししています。当日参加されなかった方、財団事務所まで取りに来て下さい。

★精勤賞受賞者(敬称略、順不同)

◆精勤賞

- 荒木孝文の磯辺富次、魚谷日出子、大川雅永、尾山宗美、澤井久義、谷岸清士、玉井文次、只野正則、土居正輝、西部純郎、福井一公、高澤昭二、宮越謙三、明神外二、湊信雄、水野博之、森田恵子、森下和義、若林邦男、佐藤伸夫、坂橋誠、虎谷博、高田正一、田口松男、山口信子、岡崎真理、品田聖三、金森進、牧野佳子、牧野実、水口勝務、哲雄、二上勝、尾崎孝、原井節子、喜多稔、武田信幸、南敦史、四日智子、河原秀夫、中山博、中島忠夫、以上四三名

◆精勤賞

- 水野洋子、勝山達雄、山崎芳治、久保光生、森田祐正、若林良作以上六名

「ボランテア」からの知らせ

①セイル作製について 今冬もセイルの作製を行います。作業予定とは左記の通りです、どうぞご参加下さい。(参加時間は自由です)

なお、作業服、用具等については船で用意いたしますが、昼食等が必要な場合には各自でご用意下さい。

記

日時 平成八年一月二〇日以降の土曜日と日曜日。九時から十六時頃まで。場所 海王丸船内作業場

製作セイル アップパートップスル これまで作製したセイルの中で最も大きなものです。作業量も増えますのでご協力をお願いします。その他 初心者大歓迎。空き時間を利用してマット作りの指導等も予定しています。

②イルミネーションの予定 夏休みの間、海王丸をあざやかに飾っていたイルミネーションを年末年始の間にも点灯します。期間は十二月二十三日から二十五日までと十二月三十一日から一月三日の間の日没時から二十一時までです。寒空の下、海王丸を暖かく包む明かりも是非ご覧下さい。

③ラメール定期購読の方へ ラメール一・二月号を財団事務所にてお渡しします。十二月二十六日以降に受け取りにお越し下さい。

④船員日記の転送について 船員日記(成山堂書店)を転送いたします。潮汐、日出没、旧暦の記載の他、金銭録等も含まれた内容となっております。平成八年の表紙はクリスタル・シンフォニーです。定価一五〇〇円を一四〇〇円で。ご希望の方は、業務課上田まで。

ボランテアの総帆展覧

★データ

- 月日◇天候◇参加者◇その他
- 12/03◇曇り後雨◇八三名◇ポルトタックスクエアード、縦帆のみ展覧。通算五〇回目の展覧
- アンペンディング
- 12/04◇晴◇二十七名◇フォアマストから順に取外し、濡れたままウェルデッキに積み上げ
- 12/05◇快晴◇二十七名◇セイル乾燥と帆装ギア類の乾燥、収納



探訪記 その二

阪本義治

前回の最後に、次回はテイクリッパについて書くことと予告しましたが、変更してグリニッジ王立海事博物館について書きます。その一でカテゴリーサークのことを書きましたが王立博物館はそのカテゴリーサークから歩いて一〇分程の距離にありその前方には海軍兵学校の校舎が建っており、グリニッジはやはりアカデミックな町なのです。

博物館に一步足を踏み入れるとさすがはかつて七つの海を制したイギリスだけあってその収蔵物には目をみはるものがあります。中でも私の尊敬するキャブテックの使用していたクロノメーター、六分儀を見たときには、クックが使用していた様子が目に浮かび我を忘れて一〇分くらいぼうぜんとしていました。

キャブテックといえはその名を知らない人がいないくらい有名ですが、彼は三度も

南太平洋に赴き天体観測、測地観測はたまた当時知られていなかった南極大陸を求めて南極圏に突入するという偉業を成し遂げた人物です。

また、トラファルガーの海戦で勝利しフランスとの戦争を勝利に導いたネルソン提督の制服なども展示してあり、こういったものがよく残っているなあと感心させられました。

余談ですが、彼の乗船していたピタゴリア号は軍港ポーツマスに保存されています。残念ながら見に行けませんでしたが。

その他には一六世紀頃使用されていた航海術の教科書もあり、天測計算の方法は私が発見したものとほとんど一緒でした！

とにかく王立海事博物館はすごいの一見に尽きます。是非 行って見られ！

注一・クロノメーター

自船の緯度を知るのには比較的簡単ですが経度を知るには正確な時計が必要で、このための非常に正確な時計のことをクロノメーターといいます。

注二・天測計算

自船の緯度、経度を知るために天体の高度を測定し、それに基づいて行う計算

タグボートからみた海王丸新港回航記

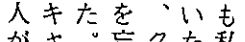
タグボート「らいちよう」 磯辺富次 一等航海士

◇回航開始

富山港で一番狭い所となる西側六号岸壁から八号岸壁の手前でドックマスターの指示からパイロットの指示に代わり、新港まで航行することになります。しかし、あまりにもゆっくり進んでいるため進路が定まらず、七号岸壁付近に停泊中のロシア船の方に少し寄り過ぎてしまいました。強く押しすぎたのか今度は海王丸船首がロシア船に近くなり、船首待機中の日本海丸が右舷船首を急いで押し、平均に直すというアクシデントがおこりました。あまりにも微速のためちよっとした外圧力で進路がかわってしまったので、このようなときの



パームと針の持ち方



ひらぬい

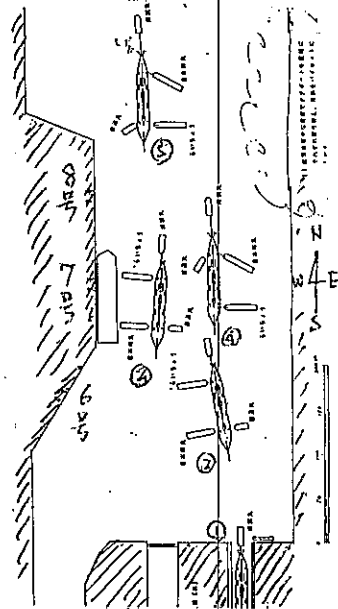
対処が一番緊張します。

八号岸壁を過ぎ、二号岸壁前の広い海面に進んだところで前進行き足を止め、タグボートの配置替えを行いました。清開丸はそのままで船尾にタグラインを取ったまま曳く態勢ですが、いちようは左舷船首に移動しウェルデッキのところまで押し引きできるようにロープを取り直しました。日本海丸は左舷船尾に移動し押し引きできるようにロープを取り直し、日通丸は右舷船首に移動してロープ無しで押し引きの態勢で随行することになりました。これはつまり、清開丸が微速で曳航していく際に行き足が早すぎればいちようで軽くアスタン(後進)をかけて行き足の調整を行い、横方向の調整は船尾側を日本海丸、船首側をいちようが行えるような態勢をとっているのです。

一〇時四十五分富山港灯台(Aポイント)通過。ここまでで一時間が経過しました。狭い港内を出れば少しずつ速力を出してはどうかと思うわけですが、海王丸は曳航されているため、三ノットから五ノットの速力で航行を続けました。これは、速力が遅すぎれば途中で川の流れや潮流の影響を受けることになり、速力が早すぎれば船体の舵等を破損する恐れやプロペラの空転が機関の故障につながる恐れがあるからです。海王丸が自力航行ができれば新港までは一〇ノットで一時間程度で行けるのですが。

◇操船
港外に出るとバイロットから清開丸に進路(何度の方向に進め)や速力調整(デッドストップ、スロー、ストップ)の指示がきます。また、他のタグボートには動作(押し、引けストップ)と動作の方向(時計の文字盤で何時の方向)の指示がきます。たとえば三時の方向にスローで押しという具合です。通常船首方向を〇時(十二時)として時計まわりに方向を指示するため、この場合は右舷正横の方向からゆくり押しということになります。今回の場合、海王丸の曳かれてる方向が船尾なので船尾方向を十二時、船首方向を六時に変更するとバイロットから指示がありました。最初は感覚がずれてしまい、ついいつもの感覚でレバー操作をしてしまっていたん考えて指示どおりの操作に訂正する

ことが多くありました。曳航されている海王丸の横では財団がチャーターした、はまゆうが多数のボランティアを乗せて伴走しており、私も双眼鏡でボランティアの皆さんの方を見たり、手を振ったりしました。(つづく)

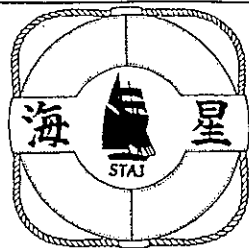
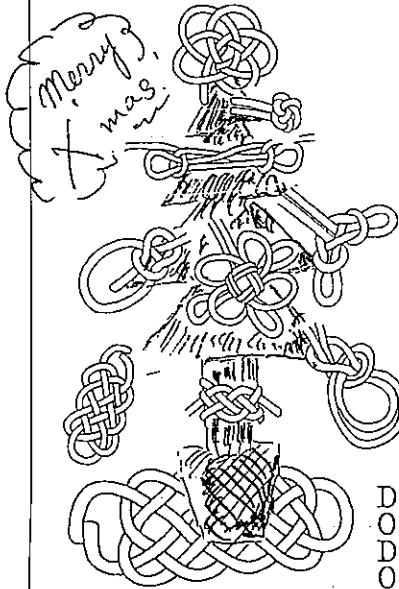


あがき

十一月は総帆展帆の翌日から船内公開を中止して、アンペンディング、その後マスト塗装、ターリング、そして木甲板のピッチ流しと冬に備えた準備作業で慌ただしいひと月でした。天候に左右されるため毎日天気予報とにらめっこでしたが何とか期間内に工事を終えることができ、ほっとしました。しかし、天候の変化の早いのは驚きます。十月はあんなに穏やかな日が多かったのに十一月には一転して雨模様、そして十二月には一転して雪やみぞれが降ってくるんですから。一月に入ったら、と思うと南国育ちの私には不安がっぱいです。

一九九五年もあとわずかとなくなりました。いろいろと惨事の多かった年でしたが、一九九六年は明るい年にしたいものです。ボランティアの皆様の御健康とご多幸を祈念いたしております。どうぞよいお年を!

DODO



帆船「海星」
ニュースレター

VOL. 10
1995年12月15日発行
(財)日本セイルトレーニング協会
〒113 東京都文京区本郷1-14-4
南陽堂ビル4F
TEL: 03-3818-6272
FAX: 03-3818-7816

海星がニュースレター(B4版両面)が送られてきたので一報をご紹介いたします。

Merry Christmas & A Happy New Year!
今年の冬はこのほか寒さが厳しいようですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。沖縄に到着した海星では、Tシャツに短パン姿で作業をした日もあるそうです。何とも、うらやましい!

「地球人航海95」訓練生募集中

11月9日より沖縄を拠点として、3か月にわたる特別航海「地球人航海95」が始まりました。「心を開けば、みんな同じ地球人」を合い言葉に、国内外から訓練生が集まっています。この航海は、心身に様々なハンディキャップを抱えている方々にも参加してもらえよう、日本船舶振興会からの補助金により通常のプログラムに比べて乗船費が大幅に安くなっているのが特徴です。これまでに、聴覚や視覚に障害を持つ方や遠くシンガポールの学生から参加申し込みが寄せられています。また、今後の航海では初めて車椅子の方が宿泊をともなう航海に挑戦する予定です。年末・年始の航海OW-6は、クリスマスとお正月を帆船で過ごすという欲張りな方たちで満員になってしまいましたが、年明けのコースなら、まだ間に合います。この機会をお見逃しなく!

★コースの見どころ
<OW-7> 静かな夜の当直、空を南十字星が移動していく。時の立つのも忘れて舵を握るうちに、荘厳な夜明けが訪れる。やがて、唐人墓と黒真珠の島「石垣」が、氷平線に現れてくるだろう。
<OW-8> さわやかな八重山の風が帆を膨らませる。マストから見下ろすセルリアンブルー美しい珊瑚礁の海に悠然とマントが船を追い越して行く。石垣、宮古ともに羽田、大阪からの直行便あり。
<OW-9> 大陸からの季節風を受け、ダイナミックなセイリング。伝説のニライカナイ神々の国が出現するかもしれない。
<OW-10> 広大な海域に交易を求めた琉球の始祖「尚王朝」。その古代のロマンを求めて現代の進貢船「海星」は、大冒険10日間の旅へ錨を揚げる。

★航海スケジュール

コース	乗船	下船
OW-7 5日間	那覇 1/12(金)	石垣島 1/16(火)
OW-8 3日間	石垣島 1/19(金)	宮古島 1/21(日)
OW-9 6日間	宮古島 1/23(火)	那覇 1/28(日)
OW-10 10日間	那覇 2/3(土)	那覇 2/12(月)

参加費: 1日あたり
一般¥6,000 学生¥4,000

